

西表島での自然環境保全・回復のためのボランティア募集（初版）

西表島の自然環境の維持・回復のための作業に協力をして下さる方を募ります。景観改善によって観光資源の確保に貢献できます。また、児童生徒への環境教育の場を提供できます。

うなり崎公園：オオハマボウ、クサトベラ、ススキ、アダン等を除去して、景観を楽しめる様にしました。テッポウユリ、イリオモテアザミ等が花を咲かすようになりました。この状態の維持をします（観光資源の確保）。在来植物の観察の場にもします。



1. **センダングサ駆除**：引き抜く方法で駆除し、種子（生物学的には果実）の散布をできるだけ抑えます。つる性の自生種、ノアサガオ、キダチハマグルマ、ホウライカガミの生長を促し、被陰によってセンダングサの繁茂を抑えます。2-3年の作業後には、新たに持ち込まれた種からの個体だけを駆除対象にすればよい状態になるでしょう。センダングサは台風時に舞い上がった潮がかかると枯れるので、これも利用します。前記のつる性植物には耐塩性がありますが、どの程度か調べます。

2. **コウシュンシバ植栽**：公園南の駐車場に隣接する区画に外来種のムラサキヒゲシバが繁茂していますが、この種を在来のコウシュンシバ（一般名コウライシバ）に置き替えます。移植苗はうなり崎から採取し、増殖したものを用います。

初期の整備

子午線ふれあい館近くの造成池：造成池は水生昆虫の保全とイリオモテヤマネコの狩場としての機能を持っていますので、この機能を維持します。池の周辺では植栽をしたサガリバナが花をつけるようになりました。在来種のヒメキランソウも育て、

観光スポット化を図ります。水生昆虫観察の場にもします。池周辺に生える植物の観察の場としても活用します。



1. **オオクログワイ駆除**：池内に生える外来種オオクログワイの駆除を年 4 回ほどします。今はレーキを用いた駆除を行っていますが、この方法で泥も一緒に除去できます（池が浅くなることを防げます）。作業によってレプトスピラ症を発症する可能性がありますので、発症数の少ない冬期と春先での活動をお勧めします。

2. **コウシュンシバとヒメキランソウ植栽**：池と山側水路との間にある堤で雑草繁茂を抑えるために、コウシュンシバを植えます。ヒメキランソウの花を帯状の土地で楽しめるようにします。これら 2 種の植栽をして頂きますが、植栽初期には除草もして頂きます（引き抜き）。

注）：池には夜間イリオモテヤマネコが訪れますが、ヤマネコがくつろぐ場所（カメラの前）を観てください。5－10 月にテナガエビの釣りができます。釣り竿と餌を提供します。宿泊先等で、から揚げにしてください。池は私有地です。この点、ご配慮をお願いいたします。

[池を訪れるヤマネコや鳥（動画）](#)

[池周辺で観察される植物](#)

祖納海岸（砂浜）：西表島では海浜植生を観ることができる場所が少なくなりました。祖納の海岸でも草地の面積が大幅に縮小しました。潮位の上昇（推測です）の影響でしょうか。このような状況下で、私どもは 2017 年からクロイワザサの植栽で景観の改善をしました。その後、台風（と潮位上昇？）の影響で植栽地のかなりの面積を失うことになりました。また、長期間手入れを怠ったため、植栽初期の整った景観は失われました。祖納海岸では 2006 年に突堤が設置されましたが、以後、東側の砂浜の面積は変わっていません（堤の効果でしょう）。ここで海浜植物園を

造ろうと考えています。



1. センダングサ、アメリカハマグルマ、ギンネム駆除：植物園化に際して、先ず、外来植物を取り除きます。砂浜ですので、センダングサとアメリカハマグルマは容易に引き抜くことができます。ギンネムはノコギリでの駆除となります。

2. 海浜植物の植栽：サキシマハマボウ、ゴバンノアシ等の花木で防風を強化し（移植苗は準備済み）、その後に貴重種を含めた在来草本を植えます。グンバイヒルガオ、スナズル等は手をつけずに残します。

3. 漂着ごみ回収：台風後にごみが散乱している際には回収を手伝って頂きます。

初期の整備

祖納海岸（海域）：西表島のウミシヨウブ藻場は存続の危機にあります。今できることは健全株が残っている藻場から移植苗と種子を採取し、これらを用いて消失した藻場を回復させることです。残念ながら、移植・播種実験ができる堅牢な食害防止柵がありません。このため、大破した食害防止柵（2020年に設置した32m平方柵）にモズク網を張り、実験を進めます。

1. **ウミシヨウブ移植・播種実験**：野原海岸から得られる材料を移植・播種します（写真は実生苗）。今は、地下茎と根が深くまで伸びる苗のつくり方を模索しています（移植後に波浪に耐える苗にするため）。作業時の潮位は概ね50cm以下です。移植はウミシヨウブ開花予想日の期間で行います。播種は8月下旬－10月上旬の開花予想日の期間で行います。

2. **大破した柵の有効化**：大破した食害防止柵を見苦しくない状態に、また移植・播種実験ができるようにします。大破した柵は美田良海岸にもあり、この利用も進める予定です。

注)：大破した柵の内側には8m平方柵があり、ここでは健全株が生育しています。

他のウミクサ類も生えています。



[大破した柵と内側柵での藻場推移](#)

浦内川一千立集落間と浦内集落内の県道沿い：西表島の場合、道路沿い（および縁石沿い）の除草の目的として、見通しを良くしてヤマネコの交通事故防止に役立てる、が挙げられます。年に数回の除草がされますが、草丈の短い期間は年間を通して半分ありません。私どもは縁石沿いにコウシュンシバを植えました。これが『密生する』と、その後は、他の植物がほとんど生えません。長期的に除草の労力と経費が節約できます。このような植栽による雑草管理を沖縄県、他県に広めたいと考えています。この理由でボランティア活動に加えました。他県ではコウシュンシバ、あるいは他のシバ属の在来種が候補になるでしょう。西表島での体験を基に、お住まいの地域で実験をして頂きたいと考えています。



1. **除草**：植栽地での除草をして頂きます。除草をする必要がある期間は長くありません。道具を使って、根を含めての除草です。

植栽例

コウシュンシバの特徴、活用法

浦内川一千立集落間の県道沿い：西表島では[多種の外来植物](#)が生えています。生態系に脅威となるギンネム、アメリカハマグルマはいたるところで観られます。脅威となる種であっても、島内に広く分布している種については、駆除を諦めているという話を聞きます。脅威種については、貴重な生態系エリア、観光スポット等、区域を限定して計画的に駆除を進めるべきと考えています。この考えの下、代表的な湿地がある浦内川一千立集落間の県道沿いでギンネムの駆除を進めています。当初〈2017、2018 年〉は太い幹の株が多く、ショベルカーでの引き抜きとチェーンソーによる伐採をしました。残っている株は小型ノコギリで切れる太さです。現在、駆除作業は最終段階です。なお、海側では潮位の上昇で、枯死が生じているようです。

1. **ギンネム駆除**：幹の切断による駆除。アダン林内では葉の棘が刺さることがあります。

注)：アダンが繁茂して、景観が悪くなっています。

駆除方法での参考

《作業人数、作業期間・時間帯、連絡・問い合わせ方法等》

- ・家族連れを含めて、3 名ほどでの参加を基本とします。一週間前までに連絡をしてください。多人数の場合は、用具の数等の面で、ご希望に沿えない場合があります。
- ・作業の時間帯ですが、5－9 月は早朝（6：30－7：00）からの 1－2 時間、その他の期間は 8：00－17：00 間の 2 時間とします。ウミショウブ関連作業は干潮時の 2 時間です。作業はウミショウブ関連作業を除いて、通年で行われる、としますが、2028 年 3 月まで、とします（主催者が高齢のため）。
- ・作業場所での現地集合となります（送迎はありません）。
- ・作業に必要な用具（鎌、鋸、胴長、手袋等）は私どもが用意します。3 名分はあります。
- ・問い合わせはメール（nqf31226@nifty.com）でお願いいたします。

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会
高相徳志郎

2025. 07. 07